

▶カリキュラム

年次 科目	1 年次		2 年次		3 年次		
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
教養系 教育	リベラルアーツ／教養系教育						
	アカデミック スキルズ入門	保健体育学					
	微分積分学						
	基礎統計学						
英語教育	英語 I RW-1	英語 I RW-2	英語 II RW-1	英語 II RW-2	実用英語 I	実用英語 II	
	英語 I LS-1	英語 I LS-2	英語 II LS-1	英語 II LS-2			
化学系 薬学教育	有機化学概説	基礎有機化学 I	基礎有機化学 II	有機化学 I	有機化学 II	医薬品化学 I	
	基礎化学		生薬学		生命の化学	天然物化学	
物理系 薬学教育	基礎物理学	物理化学 I	物理化学 III	物理化学 IV	放射化学		
		物理化学 II	分析化学 I	分析化学 II	機器分析	臨床分析	
	基礎演習 I					基礎演習 II	
生物系 薬学教育	基礎生物学	生理学 I	生理学 II				
	解剖学	生化学 I	生化学 II	分子細胞生物学	分子生物学		
			微生物学		免疫学		
衛生系 薬学教育				公衆衛生学	毒性学	環境科学	
				食品衛生学			
病態・薬理 薬物治療系 薬学教育		薬物治療学入門	生体と薬物	臨床薬理			
	病態・薬理・ 薬物治療系薬学教育 薬物治療の実践のために 責任ある薬物治療を実践するための 基本となる疾患の病態生理と薬物の作 用メカニズムを関連付けて系統的に理 解し、主な疾患についてガイドライン による標準化された治療方針を把握し 上で薬物の有効性・安全性を適切に評価 する、といった患者個々の薬物治療を 実践するために必要な学力を段階的に 身につけていきます。		症候・臨床検査	疾患と治療 I	疾患と治療 III	疾患と治療 IV	
				疾患と治療 II		疾患と治療 V	
					薬物治療学 I	薬物治療学 II	
						薬物治療学演習 1	
薬剤系 薬学教育				物理薬理学	製剤学		
臨床系 薬学教育			臨床薬学 I		薬物の体内動態	薬物動態解析	
			医療倫理学		医薬品情報学	臨床薬学 II	
総合 薬学教育	早期体験学習			医療コミュニ ケーション I	社会と薬局	医療コミュニ ケーション II	
	薬学への招待	薬学リテラシー					
	ヒューマン コミュニケーション I	ヒューマン コミュニケーション II					
		人の行動と心理					
		日本薬局方概論					
実 習	情報科学実習	分析化学実習	有機反応化学実習	有機合成化学実習	薬理学実習	生薬・天然物化学 実習	
		病態・治療学実習 I	物理化学実習	生化学実習	微生物免疫実習	衛生薬学実習	
					メディシナル ケミストリー実習	薬物動態実習	

4 年次		5 年次		6 年次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
教養系教育 物理・化学・生物の基礎を学ぶ 物理学・化学・生物学・数学・人文系科目など、6年間にわたる薬学の専門的学習に向けた基礎的知識を修得します。また、受け身ではなく主体的に学ぶ姿勢を身につけ、他者の多様な意見に触れる機会も提供します。		英語教育 実用的な薬学英语の修得 「読む・書く・聞く・話す」をバランスよく身につけられるように、「薬学英语入門」を1～3年次にかけて必修科目としています。1～2年次では「読む・書く」に特化した授業（RW）と、「聞く・話す」に特化した授業（LS）を通じて、医療現場で薬剤師に必要とされる英語力を養成します。また希望者は3年次にTOEIC公開試験を受験することができます。			
医薬品化学Ⅱ		化学系薬学教育 医薬品の構造式を理解する 多くの医薬品は化学物質です。化学物質の基本的性質を理解するための基本的知識と、実習でその扱いに関する基本的技能を身につけます。タンパク質や糖、脂質など生体内分子も化学物質です。そのほか自然界が生み出す薬物（天然物）についても学びます。		物理系薬学教育 原子・分子から熱力学，反応速度まで 生体内には様々な物質が存在し、それらが反応することで生命活動が営まれています。医薬品も生体内の物質と相互作用をし、その効果を発揮します。これらのことを理解するため、原子・分子の性質や放射化学，化学熱力学，溶液化学，反応速度論といった事項を修得し、応用する技能を身につけます。また、医薬品の開発，生産や品質保証・管理に不可欠な分析法も学びます。	
衛生系薬学教育 公衆衛生の向上に寄与するために 公衆衛生の向上に寄与できる薬剤師として、「生（いのち）」を「衛（まも）る」ために必要なことを薬学の立場で考え、行動・実践する力が求められます。このような力を身につけるため、環境要因によって起こる疾病の予防や健康被害の防止、感染症の予防・まん延防止、健康の維持・増進に必要な栄養・食品衛生、人の健康に影響を与える化学物質の適正な管理と使用、環境保全などについて学修します。		薬剤系薬学教育 製剤化の意義と方法を学ぶ 医薬品の適正使用に向けて、製剤化と薬物体内動態に関する知識・技能のほか、錠剤や注射剤など製剤化の方法と意義を学び、製剤の特性を理解します。薬物体内動態は、薬物が体内でどのように吸収され、分布し、代謝・排泄されるのかを理解し、患者の病態や個人差、薬物相互作用などを考慮した投与計画の作成などを修得します。		生物系薬学教育 ヒトや微生物の構造と相互作用 ヒト（生命体）や微生物（環境因子）の構造を分子，細胞，個体レベルで多角的に学びます。また生体内における分子の相互作用や細胞間の相互機構を理解するとともに、微生物についても宿主との関連を分子，細胞，個体レベルで見えていきます。	
漢方治療学		臨床系薬学教育 臨床現場での活躍を目標に 薬剤師として求められる基本的な資質を身につけることを目標に、早期（2年次）から卒業まで継続して修得していきます。病院・薬局など臨床現場で活躍できるよう、2～4年次に学ぶ臨床系講義と、5年次に学外の病院・薬局で5か月間かけて行う実習の2部構成となっています。さらに6年次では薬学臨床アドバンスト科目を学びます。			
疾患と治療Ⅵ					
薬物治療学Ⅲ					
薬物治療学演習 2				薬物治療学演習 3	
薬物送達法					
治療薬物モニタリング					
医薬品の安全性		医療安全			
セルフケア メディケーション		臨床研究・医薬品開発		臨床・情報薬学コース 選択科目	
臨床実習事前学習Ⅰ		臨床実習事前学習Ⅱ			
薬事関係法規		薬学演習		分野横断型演習	
薬学研究 1／薬学研究 2		基礎薬学総合演習		最終総合演習	
		総合薬学教育 総合力のある医療人を目指す 薬学系人材育成全般を担う科目から構成されています。生命・医療倫理，法規制の修得のほか、早期体験学習やインターンシップを通じて、薬学生に卒業後の将来像を感じてもらいます。上級学年では薬学・医療の進歩と改善を遂行できる能力を培い、6年次後期に開講される「最終総合演習」によって、6年間身につけた学力の確認を行います。		薬学研究 3／ アドバンスト薬学研究	
製剤学実習					
病態・治療学実習Ⅱ					